

2015.06.12-1

獵師岳1423mのオオヤマレンゲ



登山口の九重森林公園スキー場に行く途中のショット



シライトソウ（白糸草）
ユリ科

花茎から多数の細長い花弁が立っているように見え、
真っ白なビン洗いのブラシが立ったような不思議な姿を見せる。また、香りもよい。



和名の由来は、根を噛むとクラクラするほど苦いことから、眩草(くららぐさ)と呼ばれ、これが転じてクララと呼ばれるようになったといわれる。



本州、四国、九州、中国大陸。
日当たりの良い草原などに自生する。
日本では草原環境が農業形態の変化
によって衰退しているため、自生地が
かなり減少しており、これのみを食草と
するチョウの一種オオルリシジミは
かなり希少なものとなっている。
全草有毒である。

日本の以下の都道府県で、以下のレッド
リストの指定を受けている。

絶滅寸前または絶滅危惧種
(絶滅危惧I類、CRまたはEN) - 佐賀県
危急種 (VU) - 愛媛県
準絶滅危惧 (NT) - 高知県、鹿児島県



クララ（眩草） マメ科



グミ（葉莢） グミ科 落葉低木

ここからゲレンデを歩いて登っていく。
天候は、曇り、少しガスっている。



ヨーロッパ、西アジアおよび北西アフリカ原産であるが、世界中に移入されている。以下の7変種が知られており、変種毎に分布も変わる。日本にはシロツメクサと共に牧草として明治以降移入されたようである。



ムラサキツメクサ（紫詰草）マメ科
帰化植物 別名：アカツメクサ（赤詰草）

ヨーロッパ原産、日本では帰化植物である。[オオバコ](#)より大きく高いが、オオバコのような踏みつけ耐性はない。

[江戸時代](#)末期に侵入したものとされ、その後広く日本全土に分布を広げた。

畑地、道端、果樹園、河川敷、牧草地、荒地などに耐乾性があるため広く生育する。

北アメリカをはじめ世界中に分布を広げ、[コスモポリタン雑草](#)となっている。

[環境省](#)指定の[要注意外来生物](#)類型2に指定されている



ヘラオオバコ（笹大葉子）
オオバコ科 帰化植物

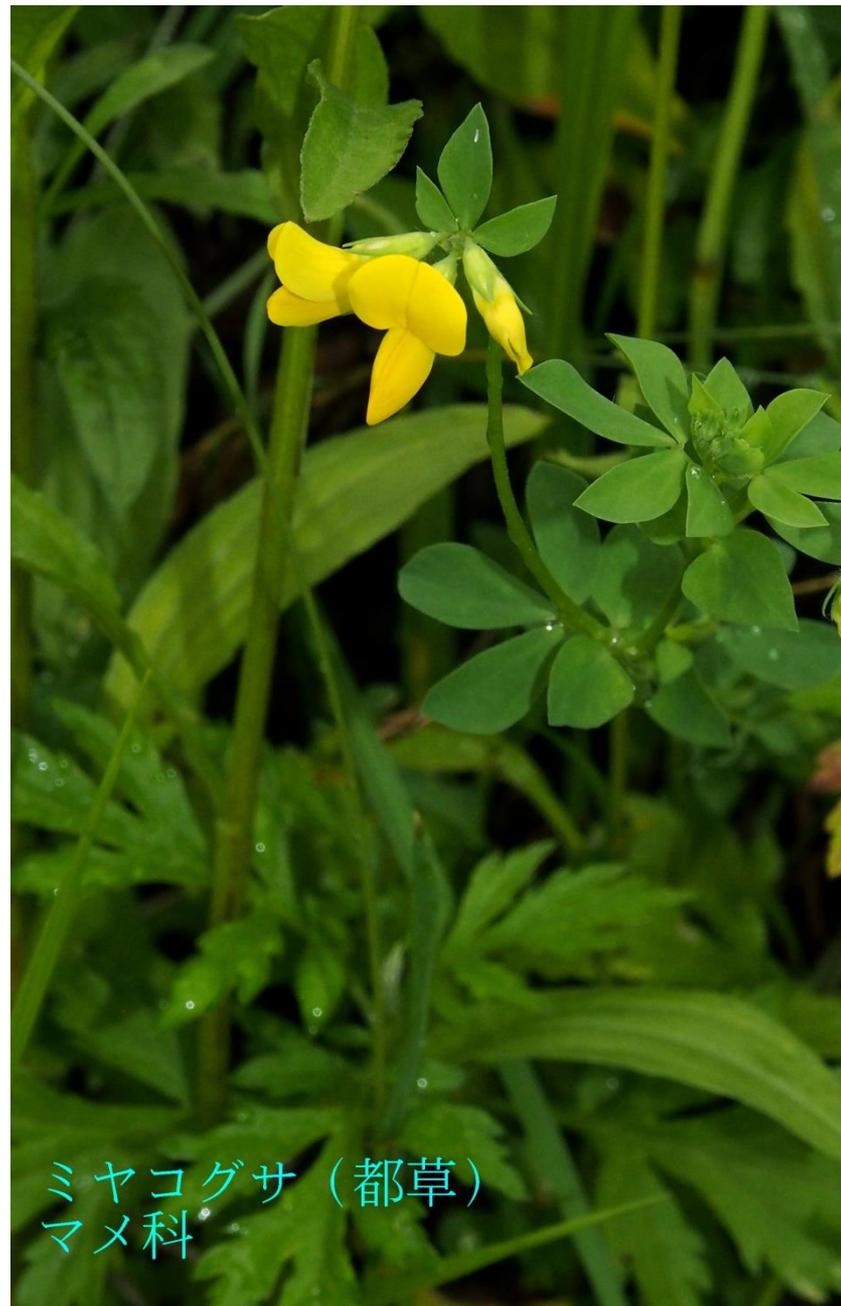
道端などに普通に見られる野草。

春に黄色い花を多数つける。

道端から海岸沿いまで、背の低い草原で、よく日の当たるところに多い。田畑の周辺にもよく姿を見る。耕作地に侵入する雑草ではないが、その周囲によく見かける野草としてよく親しまれている。

元来は帰化植物であるようで、ムギ類の栽培に付随して持ち込まれた史前帰化植物であるとも言われる。

日本では北海道から南西諸島までに広く分布し、国外ではインド以東の東アジア一帯に広く分布する。



ミヤコグサ（都草）
マメ科

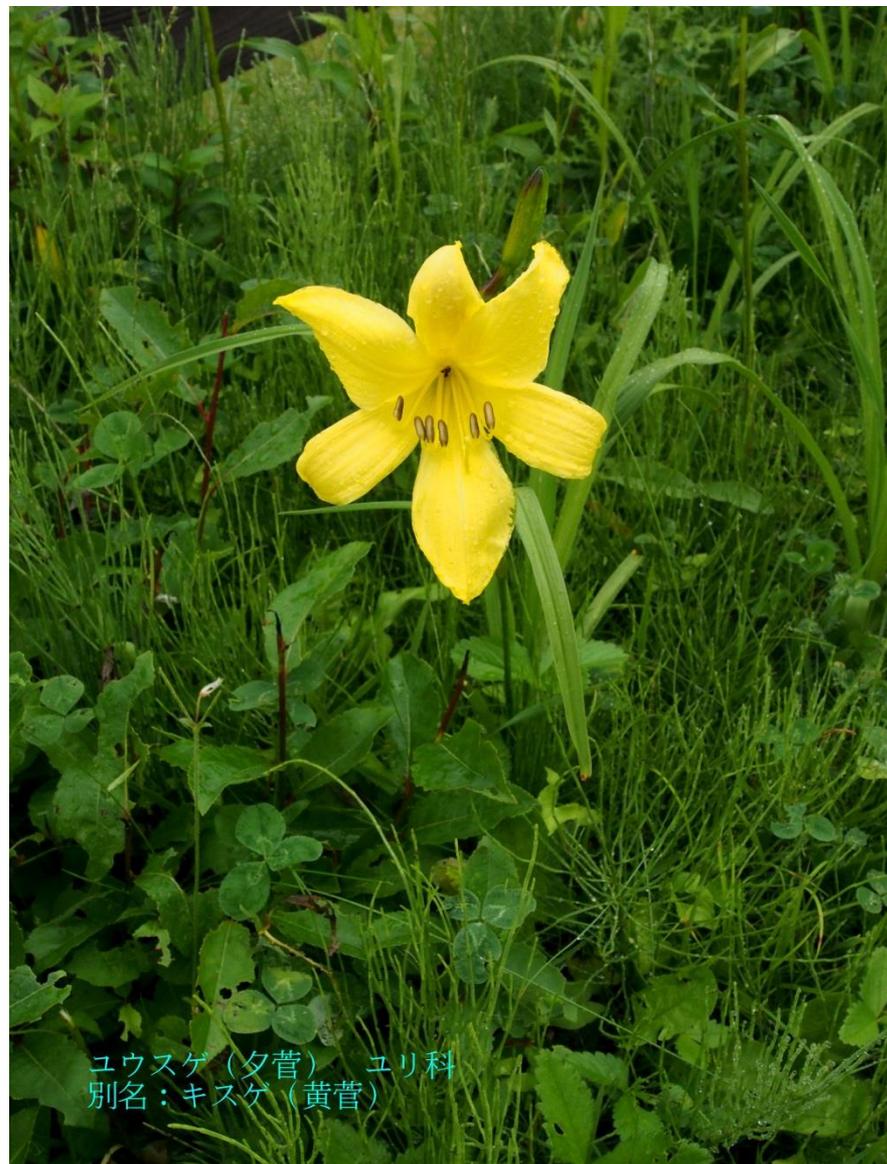
原産地ではハーブとして食用にもされる。現在ではアメリカ大陸やオーストラリア、ニュージーランドなど、世界中に帰化している。日本には昭和初期に入ってきたとされ、北海道及び本州の広い範囲に分布。道路脇、空き地、牧場、草原、農耕地の周辺で生育している。

タンポポモドキ (false dandelion) という別名もある。日本で1933年に札幌市で初めて発見された際はタンポポモドキと命名されたのだが、翌年の1934年に兵庫県六甲山で見つかった同種の植物には**ブタナ**と名付けられ、現在はブタナのほうの名称が主流となっている。和名の「ブタナ」は、フランスでの俗名 Salade de porc (ブタのサラダ) を翻訳したものが由来となっている。



ブタナ (豚菜)
キク科 帰化植物

花は夕方から開き、翌日午前中に閉じる。やや芳香があり、花被は淡黄色。
この色は、暗闇でも蛾などの夜行性の虫に良く見えるといわれる。



ユウスゲ（夕菅） ユリ科
別名：キスゲ（黄菅）

リフト乗降上の注意事項

- 1 二列にお並びください。
- 2 待機位置で背が青になったら、乗車位置まですばやくお進み下さい。
- 3 ストックは右手又は左手にまとめてお持ち下さい。
- 4 降車の時は、降車位置ですばやく立ち、前方に降り降りして下さい。
- 5 乗車中は、脚蓋（イス）を揺らさないで下さい。
- 6 一人で乗るときは、脚蓋（イス）の中央にお掛け下さい。

第3リフト



乗車位



飛び降り禁止



飛び降り禁止



飛び降り禁止

スキー場の安全を確保するために、乗車中はスマートフォンやカメラの使用を禁止します。





ミヤマキリシマ（深山霧島）
ツツジ科 落葉低木

和名に冠された霧島山・えびの高原のほか、阿蘇山、九重山、雲仙岳、鶴見岳など九州各地の高山に分布する。

ミヤマキリシマは、火山活動により生態系が攪乱された山肌で優占種として生存できる。逆に火山活動が終息し植物の遷移によって森林化が進むと、優占種として生存できなくなる。

害虫としてキシタエダシャクが大発生することがある。

1866年、坂本龍馬が新婚旅行で霧島を訪れた際、姉に宛てた手紙の中で「きり島つじが一面にはへて実つくり立し如くきれいなり」と書いている。

1909年に同じく霧島へ新婚旅行に訪れた植物学者・牧野富太郎が発見し、「深い山に咲くツツジ」という意味で「ミヤマキリシマ」と命名した。



北海道から九州の山地帯から高山帯に分布し、日当たりのよい草地に群生する。
特に伊吹山に多く、花穂を虎の尾に見立てたことからこの名がついた。



ニシキウツギ: 葉の脇や枝先に2~3輪ずつ、白い漏斗形の花をつける。花は淡い黄色を帯びており、花冠の先は5つに裂ける。花は咲き進むと紅色に変わる。初めから花の色が紅色のものもあり、紅花二色空木(ベニバナニシキウツギ)と呼ばれる。

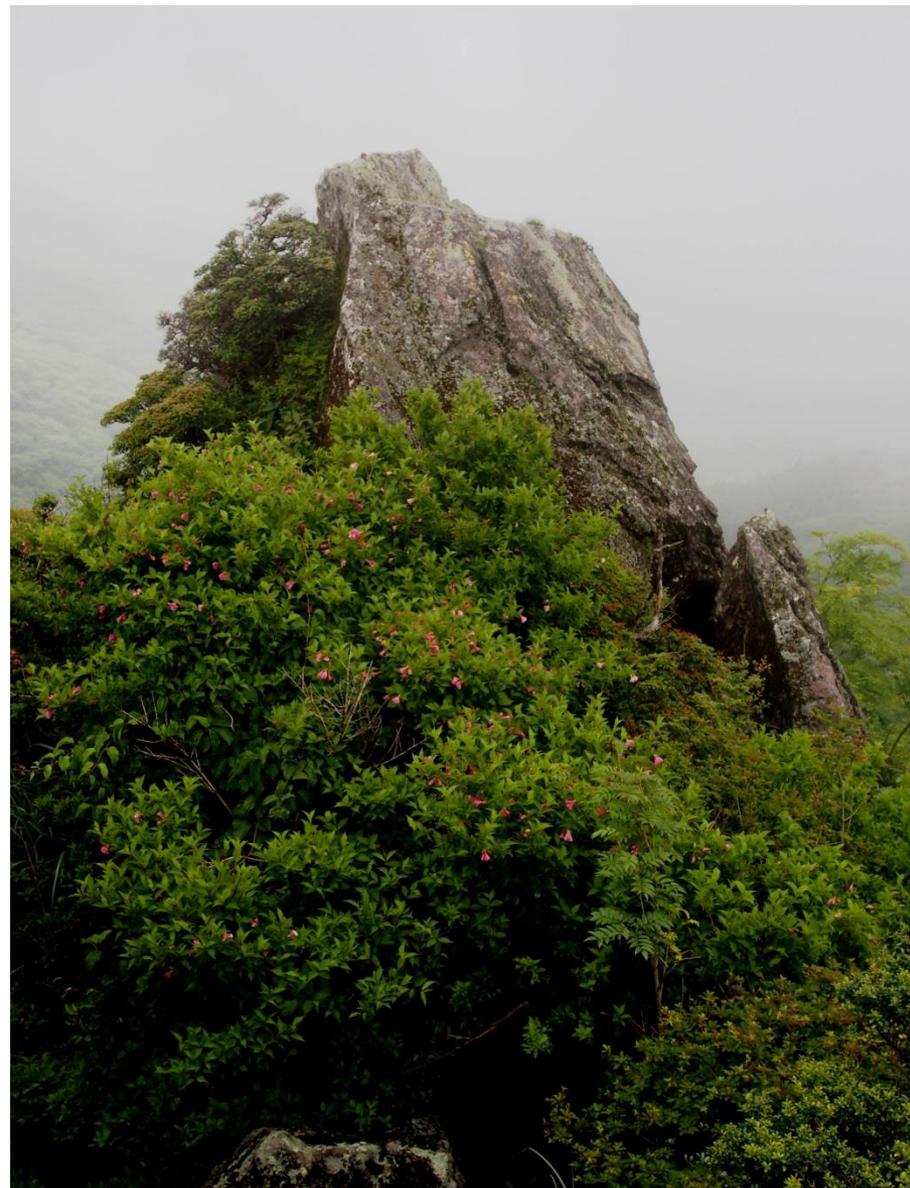




ベニバナニシキウツギ（紅花二色空木）
スイカズラ科 落葉低木



ホオジロ (類白)
ホオジロ科 L=16 cm





ベニドウダン（紅満天星） ツツジ科 落葉低木

本州(関東地方、中部地方南部、福井県、近畿地方、中国地方瀬戸内海側)、
四国、九州に分布し、山地の岩尾根などに生育する。



路傍・田畑・山野に普通で
環境により多形を示し、
日本全土、東アジアの温～
亜熱帯に分布する。

高さ約40～70cmで、茎は上部が
枝分れし白汁を有し、
苦味が多く、和名の由来にもなっ
ている。

根出葉は柄が長く、茎葉は基部が
茎を抱き、下のものほど細長い。
5～7月に、黄色の5弁花に見える
舌状花を5～7個もつ頭花を散状に
開く。

沖縄料理で野菜として利用する
「ニガナ」(ンジャナ)は
ホソバワダンという別種である。



ニガナ (苦菜) キク科



獵師岳
一四二三・二一
M

獵師山

1423m



グミ（茱萸）　グミ科　落葉低木

涌蓋山 (わいたさん)
1500m

一目山 (ひとめやま)
1287m



オオヤマシゲ

獵師岳山頂↑

草花は手で探らずに
写真で撮りましょう。

この植物はこの場所では
生きられません!!

あなたの後から来る人のためにも
探らずにここで撮影しましょう。

環境省・九重の自然を守る会



標高1,000-2,000 mの山地の林内などに自生している。奈良県の八経ヶ岳と明星ヶ岳周辺に自生地があり、1928年(昭和3年)2月7日に国の天然記念物に指定された。





オオヤマレンゲ（大山蓮華）
モクレン科 落葉低木
別名：ミヤマレンゲ（深山蓮華）





オオヤマレンゲ（大山蓮華）
モクレン科 落葉低木
別名：ミヤマレンゲ（深山蓮華）

一目山 (ひとめやま)
1287m

久住森林公園スキー場

一目山（ひとめやま）
1 2 8 7 m

涌蓋山（わいたさん）
1 5 0 0 m

九重森林公園スキー場

一目山（ひとめやま）1287m

九重森林公園スキー場